

## 平成 30 年度第 2 回多摩市立教育センター運営委員会 要点録

日時	平成 31 年 2 月 4 日(月) 15:30~16:45
委員	出席者=権藤委員長、中山副委員長、福田委員、鈴木委員、前田委員、吉田委員 欠席者=木村委員
事務局	田島教育センター長、木下統括指導主事、根津特別支援・相談担当主査、鈴木特別支援・相談担当主査

### 1 開会

### 2 教育センター長挨拶

センター長 特別支援教育推進計画の改訂の時期が近づいている。次回の計画は地域の皆さんと学習会をしたり、意見交換をしながら 2 ヶ年をかけて策定予定で、31 年度から策定を進めていく予定である。

そのため、本日は今までの特別支援教育推進計画について、どのような取り組みを進めてきたかについて、説明をさせていただくために時間を多くとっている。説明の中で、取り組みとして不十分な点、更に進めていくべき点などご意見をいただければと考えているので、よろしくお願ひしたい。

### 3 議事

#### (1) 教育センター各事業の平成 30 年度の状況について

##### ① 教育相談室・ゆうかり教室・適応指導（日本語指導）

事務局 資料 1 「平成 30 年度 多摩市立教育センター事業実績(4 月分~12 月分)」(p.1~p.6)に基づいて説明。

各事業の実績数値については、資料 1 に示したとおりで推移している。

教育相談

- ・主訴の数値として、高校生の不登校の相談が一番多くなっているが、これは、中学校の時に不登校を主訴として相談を申し込んだ人が進学・進級をし、現在高校生となっているが、経過観察等、適応をみていくフォロー期間として対応していることが多く、一番多くなっている。
- ・相談受付の入り口を広くするため、9 月より、公式ホームページにおいて E メールにより教育相談を受付できる取り組みを開始した。これについては、小・中学校の全保護者にお知らせ(資料 2)及び市内の公立中学校の全生徒にチラシ(資料 3)をお配りしている。

ゆうかり教室

- ・昨年度に引き続き体験学習に力を入れている。多摩市文化振興財団(パルテノン多摩)との協力は引き続き行い、今年度新たに、グリーンライブセンターの見学や市内企業のベネッセの協力を得て、プラネタリウム鑑賞を学期に 1 回行っている。

##### ② 特別支援教育マネジメントチーム

事務局 資料 1 「平成 30 年度 多摩市立教育センター事業実績(4 月分~12 月分)」(p.7~p.10)に基づいて説明。

今年度の就学相談の件数は昨年度は 163 件、今年度は小・中合計で 160 件。昨年度と同数程度だが、引き続き件数としては多い。今後引き続き件数が多い状態であれば、

運営の仕方が課題となる。

特徴的な部分としては小学校就学において、特別支援教室判定となるケースが 6 割近くを占めている。保護者の方の中でも何かしら支援が必要なのではないかという不安に応えることができる窓口となれているのではないかと考えている。

小学校の特別支援教室については、4 月当初と比べて 1 月 1 日現在で、100 人程増えている。

(質疑応答)

委員

・資料 1 の教育相談の相談件数は、低学年は保護者からの相談が主だと思うが、中学生や高校生は本人の相談もあると推測されるが、保護者からの相談が何件で本人からの相談が何件となっているか？それとも全て入っているのか？

⇒本日の資料については、全て含めた数字となっている。年度末の報告作成の際には、分けた形で出せるようにしたいと考えている。

・ゆうかりの学校復帰の扱いは、時期としてはいつごろなのか？

⇒今年度については、統計上 9 月で復帰とした子がほとんどである。これは年度が変わり進級した際に復帰できていたが、1 学期の経過を見て復帰としたいということで、様子を見てから復帰としたためである。

(意見)

・相談先が一覧になっていて、生徒手帳等に挟み込めるカード型のものがあると、子どもたちも必要な時に見ることができて、何かの時に相談がしやすいと思うので、ご検討いただければと思う。

⇒現在、教育相談室の電話番号を掲載した cocoro カードを発行しており、来年度については今年度始めたメール相談の内容を盛り込む予定である。いただいたご意見としては、他にも相談先の掲載があったほうが良いというご意見かと思うが、その辺りも入れられるかどうかは今度も検討していきたいと考えている。

・ゆうかり教室の受け入れに関して、定員はあるのか？学校が入級したい生徒の相談をした際に面談が混み合っているといわれてしまうことがあるが、どの辺りがすいている、混みやすいなどの目安があれば教えて欲しい。

⇒生徒の受け入れについては、一日あたりの定員というものは設けていない。多くの生徒の出席があっても、受け入れられるように体制を工夫して対応している。

ただ、入級希望の面談に関しては、保護者と本人に来てもらう手法をとっており、基本的には複数対応が必要となってくるため、学校の面談時期には様々な学校からお問い合わせがあり、希望が集中してしまうことはある。ただ、入室希望者が増えてきている中では、やり方は検討していく必要はあると考えている。

・中学校の通級指導学級について、将来的には中学校についても小学校と同様に特別支援教室の方式が導入されていくことになると思うが、特別支援教室が導入された際に、自校の特別支援教室ではなく多摩永山中の通級に残るといった希望や必要性があった場合、どのように判断されていく形になるのか？

⇒中学校の特別支援教室は平成 33 年度から開始予定としている。来年度及びその次についてもこれまでと同様の入級方式となる。特別支援教室となる際の入級の方法については、中学校特別支援教室検討委員会の中で入り方や自校の特別支援教室に通うか違う学校に通う形にするかの入級の判定方法について検討していくこととなる。

## (2) 多摩市特別支援教育推進計画に基づく取り組みについて

事務局 平成 31 年度から、第二次推進計画の検討を行っていくにあたり、これまでの 3 年間の事業の取り組みを振り返り、今後評価を行っていくうえで、どのように評価を行うと学校または地域・保護者が評価しやすいか、評価指標についてご意見をいただきたい。

資料 4 「平成 28～30 年度 多摩市特別支援教育推進計画に基づく取り組み」の「1」(p.1～5)について説明。

(質 問)

委 員 学校生活支援シートはどういったものか？就学支援シートとは違うのか？  
⇒違うものとなる。本日の資料には添付していないが、多摩市の小・中学校で使う A4 の様式がある。

高校になると学校生活支援シートは使えないのか？

⇒高校への情報の引継ぎは必要という視点で、学校生活支援シートではないが、後ほど説明する就学支援シートによる引継ぎの仕組みを作っている。まだ利用は少ないが、今後もさらに進めていく必要があると感じている。

(意 見)

特別支援コーディネーターの資質向上に記載のある、授業相談により授業について指導いただくことやピアティーチャーの研修などは効果が子どもに直接返っていく部分なので、今後もぜひ充実していただきたい。

事務局 資料 4 「平成 28～30 年度 多摩市特別支援教育推進計画に基づく取り組み」の「2」(p.5～p.12)について説明。

委 員 初めて特別支援研修一般の保護者に公開はできないか？周りに関わる大人たちも聞くことができれば理解が進むと思うのだが…。特別支援教育をもっと知る機会があるといい。

⇒教員対象としているので、保護者や地域の方に参加していただくことは難しい。地域の方への理解を進めるということでは、PTA の会合等で、桜の丘の先生や特支学級の先生を呼んで話してもらおうというのはどうか。

事務局 資料 4 「平成 28～30 年度 多摩市特別支援教育推進計画に基づく取り組み」の「3」(p.12～15)について説明。

委 員 特になし。

事務局 資料 4 「平成 28～30 年度 多摩市特別支援教育推進計画に基づく取り組み」の「4」(p.15～19)について説明。

委 員 特になし。

事務局 資料 4 「平成 28～30 年度 多摩市特別支援教育推進計画に基づく取り組み」の「5 学級整備」(p.19～20)について説明。

委 員 特になし。

事務局 評価表について、この指標で評価がしやすいか、しにくいのか、どのような形であれば、

委員 どのような形であれば評価しやすいか、できるのかお知恵をいただきたい。  
就学相談の時の判定と異なる学級種別に入っている現状があるが、そういった家庭への  
フォロー体制について、どこかに明記されているか。そのフォロー体制を明記する必  
要があるのではないか。

全体を通して、とても特別支援教育の全体像を捉えて、就学前から就労まで目配りして  
いる計画となっている。

評価となった時に、計画のほうの目標値・目標課題が明確化されていないので評価しづ  
らいという印象。やっているから OK なのか、内容が伴っていないからまだまだなの  
か。

やっているかどうかという点で見れば合格点になっているとは思う。

研修のアンケートや参加率など、取れているデータ・根拠があると評価になるのではな  
いか。

#### 4 閉 会